

イスラエルのための祈り  
詩篇27 共におられる神  
2024/7/29恵比寿マンデー



## 詩篇は幸運のお守り！？

イスラエル人の発想：困った時に詩篇を唱える

—病気になった

—お金が必要になった

しかし たとえ誤解によって近付く者だったとしても、神は恵み深い。

みことばを通して語りかけ、真実に神を求める者にご自身を知らせて下さる。

人質の一人だったサピア・コーヘンさん 人質となっていた期間 詩篇に支えられた

2023年9月の初め、彼女は何か自分の身に 悪いことが本当に 起こりそうな予感がした。

そんな時 30日間 毎日詩篇27篇で祈ることが良いことだと聞いた。

そこで、彼女は毎日詩篇27篇を朗読し始め その内 暗唱出来るようになった。この詩篇の冒頭。

“主は私の光 私の救い。だれを私は恐れよう。主は私のいのちの砦。だれを私は怖がろう。”



サピアが1カ月間、毎日詩篇27篇を朗読していたということは、それが記憶に焼き付いていたということだ。それは彼女の魂に深く刻み込まれていた。このように締めくくられる詩篇である。

"私を敵の意のままにさせないでください。偽りの証人どもが 私に向かい立ち暴言(ヘブル語でハマス)を吐いているのです。もしも 私が生ける者の地で 主のいつくしみを見ると信じていなかったなら――。

待ち望め主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め主を。"

詩篇 27篇12～14節

## 共に おられる神

サピアが この詩篇を朗読し始めて 丁度30回目を終えたのが、あの10月7日だった。この事実によって サピアは 励ましを得ていた。ガザの地下トンネルの奥深くでも、神が彼女と共にいて、彼女を助けておられること、そして、そのことを語り継ぐために生き延びることができると感じたからだった。

# 詩篇27

主は 私の光私の救い。だれを私は恐れよう。主は私のいのちの砦。だれを私は怖がろう。私の肉を食らおうと 悪を行う者が私に襲いかかったとき 崩れ落ちたのは 私に逆らう者私の敵であった。

たとえ私に対して 陣営が張られても 私の心は恐れない。たとえ 私に対して 戦いが起こっても それにも私は動じない。

一つのことを 私は主に願った。それを私は求めている。私のいのちの日の限り 主の家に住むことを。主の麗しさに目を注ぎ その宮で思いを巡らすために。それは主が 苦しみの日に私を隠れ場に隠し その幕屋のひそかな所に 私をかくまい 岩の上に 私を上げてくださるからだ。

今 私の頭は 私を取り囲む敵の上に 高く上げられる。私は 主の幕屋で 喜びのいけにえをささげ 主に歌いほめ歌を歌おう。  
聞いてください 主よ。私が呼ぶこの声を。私をあわれみ 私に答えてください。

あなたに代わって私の心は言います。「わたしの顔を慕い求めよ」と。主よ あなたの御顔を私は慕い求めます。

どうか御顔を私に 隠さないでください。あなたのしもべを 怒って押しのけないでください。あなたは 私の助けです。見放さないでください。見捨てないでください。私の救いの神よ。

私の父 私の母が 私を見捨てるときは 主が私を取り上げてくださいます。

主よあなたの道を 私に教えてください。私を待ち伏せている者どもが いますから私を平らな道に導いてください。

私を敵の意のままにさせないでください。偽りの証人どもが私に向かい立ち暴言を吐いているのです。

もしも 私が生ける者の地で 主のいつくしみを見ると 信じていなかったなら――。

待ち望め主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め主を。

## 祈りの課題

\* 人質全員の即時解放

\* 人質の方々の心身の守り

\* 人質のご家族の方々の心身の守り

\* 人質解放のため労しておられる政治、軍事、警察の指導者たちへの知恵と導き